

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称 施策Ⅱ-2-4 障がい者の自立支援

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 障がい福祉課長 平岡 昇 電話番号 0852-22-6256

事務事業の名称	心と体の相談センター運営費		
目的	(1) 対象	障がい者及び市町村等関係機関	
	(2) 意図	障がい者の自立と社会経済活動への参加促進や市町村等関係機関が行う支援の充実	
事業概要	従来は障がい者福祉各法に基づき設置されていた各相談機関を統合した「心と体の相談センター」において、障がい者及び精神保健に関する相談・支援、市町村等への技術的援助等に総合的に対応する。		

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	相談件数	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		4,000	4,000	4,000	4,000	
式・定義	相談件数	実績値	3,845	3,657	3,780	3,905		件	
		達成率		91.40	94.50	97.70		%	
指標名	相談件数	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位	
		目標値		0.00	0.00				
式・定義	相談件数	実績値	0.00	0.00	0.00				
		達成率		0.00	0.00			%	

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	20,949	49,268
うち一般財源 (千円)	20,681	40,550

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

○相談件数の内訳（H25年度、H26年度）

- 身体障がい者更生相談所業務 1,437件 → 1,329件
- 知的障がい者更生相談所業務 918件 → 899件
- 精神保健福祉センター業務 1,425件 → 1,677件（うち ひきこもり相談 33件 → 75件）
- 計 3,780件 → 3,905件

ひきこもり相談が大幅に増加している。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

○相談件数が増加した。

○相談窓口について、県のホームページへの掲載、チラシやリーフレットの作成・配布のほか、H26年度から業務内容を簡単に紹介した「ここからだより」の発行により、周知が図れた。

○ひきこもり家族教室の開催を県内2カ所から全圏域7カ所に拡大した。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

- ひきこもり状態にある方や家族等関係者から、ひきこもりの相談窓口がわからないという声が多い。
- ひきこもり相談が増加しているが、ひきこもりの原因は様々であり、適切な支援策の見極め、有効な支援へのつながりが難しい。
- 市町村等相談機関のスタッフがひきこもり相談への対応経験が少なく、対応方法がわからない。

②困っている状況が発生している「原因」

- ひきこもり状態にある方の相談は、教育、福祉、就労、保健などの各機関でも受け付けているが、特化した相談機関や総合相談窓口がない。
- 子ども若者支援センターや若者サポートステーションなどは年齢要件が39歳以下であり、中高年層の利用が難しい。また訪問支援、居場所支援などの社会資源も少なく相談で終わってしまっている。
- 市町村の相談担当者等に対するひきこもり相談の研修などが十分でない。

③原因を解消するための「課題」

- ひきこもりに関する相談窓口の周知を図るとともに、関係機関のネットワークの構築を図る必要がある。
- 訪問支援や居場所支援を行える社会資源の創出が必要。
- ひきこもり相談に対応する市町村相談担当者等の相談対応スキルアップが必要。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

○ひきこもりに関する専門的な相談支援を行う、ひきこもり支援センターを設置し、相談支援を行うとともに、関係機関とのネットワークの構築を図る。

○ひきこもりの住民への相談窓口の周知及び市町村の相談担当者のスキルアップのため研修を行う。また、圏域ネットワーク会議の開催を通じて、市町村と連携し、地域における支援体制の構築を図る。

○ひきこもりの家族教室の開催などを通じ、家族会の結成、育成に努め、今後、訪問支援、居場所支援の社会資源の担い手になっていただけるような家族会支援を行っていく。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）

--